

市内めぐりも
いいもんだ



大通りから離れた狭い道もなんのその。バスは毎日市内を走ります。今回の取材で、改めてバスの魅力に気付くとともに、病院前などで下車する高齢者の利用が多いことから、その必要性も強く感じました。

バスを待つ間、名前も知らない人と会話が弾み、そしていざバスに乗ると普段は見えない海岸や、田んぼを流れる小川、新しい店舗や建築中の病院などを発見します。

車に乗っていると「あっ」という間に通り過ぎる場所も、バスを降りて歩くことで、いろいろな発見があり、地域を見直すきっかけにもなるようです。

すてきな風景と人との出会いに癒やされ、その土地土地の輝かしい歴史に驚きの連続でした。下車する停留所さえしっかり調べておけば、安心してゆったりできるバスの旅。ピクニック気分で行くもよし、もっと気軽に利用しようと思えます。(あさり)

8時50分 「松橋営業所」発。療育センター入口を通過すると、右にレンコン畑が見える。
9時00分 豊野町「寺村口」着。そこから看板に従い、徒歩15分で浄水寺跡に到着。ここは奈良時代末期に建立された古代寺院の跡。緑に囲まれ、ひっそりとした敷地内には、延暦9年創建の碑のほか、天長3年の寺領を記した碑、康平7年の法華経の碑など、九州最古の碑が現存する貴重な寺院跡。石に刻まれた文字を見ると、昔の人のあつい信仰心が伝わってくる。

ようだ。来た道を再び戻り、9時40分、誉ヶ丘公園に到着。春は花見、夏は水辺の散歩、秋は紅葉と、通年楽しめるこの公園。この日は宇土市の網田小学校児童が、豊野少年自然の家の職員とともに散策していた。
誉ヶ公園から徒歩5分でアグリパーク豊野に到着。ここでは地元で取れた新鮮な野菜、果物などの農産物のほか、加工品・工芸品が販売されている。毎週水・土・日・祝日に開催される青空市場は特に人気で、町内外

緑いっぱい
豊かな自然に癒やされる
(取材日:5月11日)

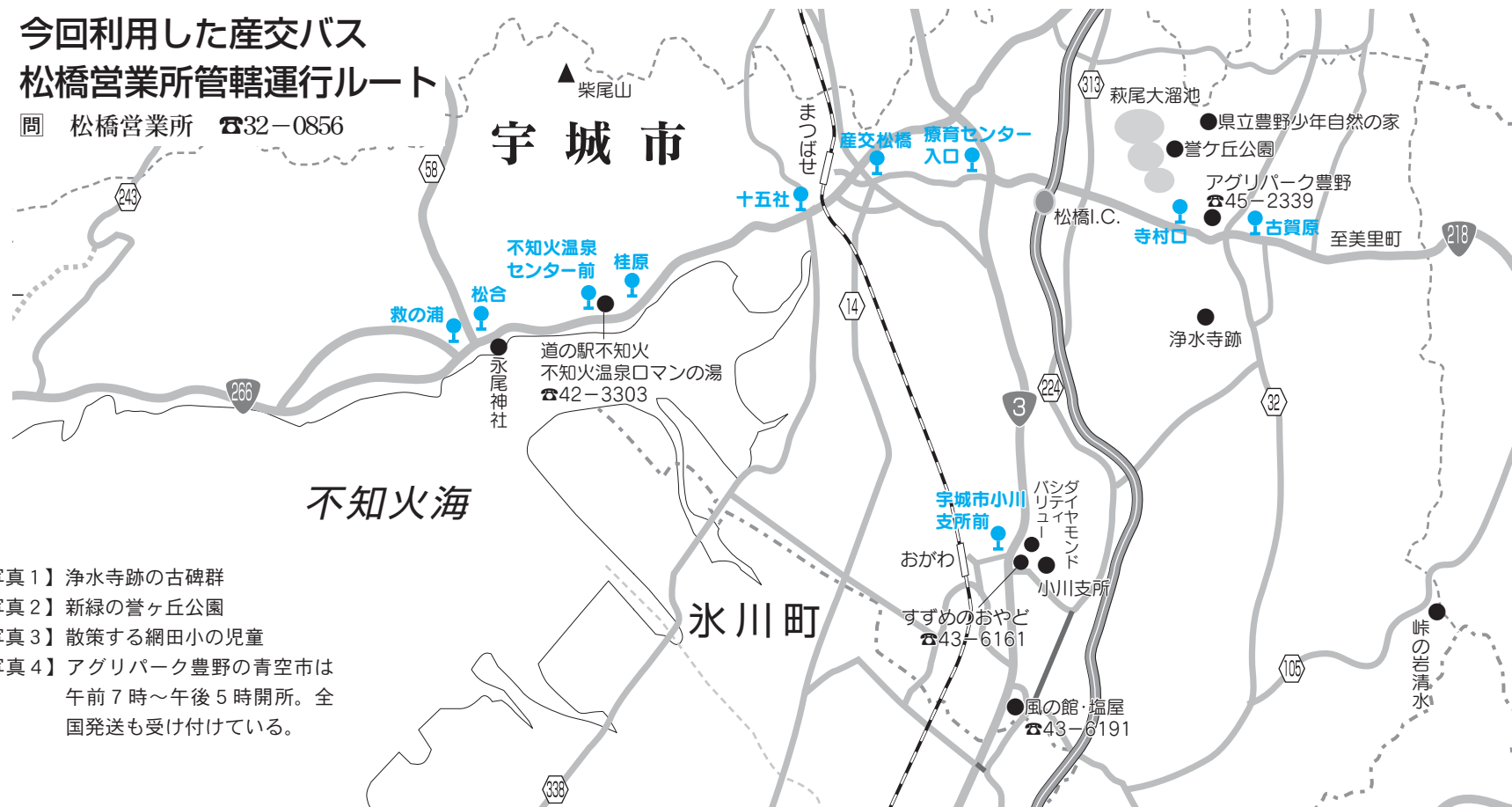


の客でにぎわう。この日は木曜日で閉まっていたので、次は開いている日に訪れようと思った。
10時31分 「古賀原」発。
10時45分 「松橋営業所」着。



今回利用した産交バス
松橋営業所管轄運行ルート

図 松橋営業所 ☎32-0856



- 【写真1】 浄水寺跡の古碑群
- 【写真2】 新緑の誉ヶ丘公園
- 【写真3】 散策する網田小の児童
- 【写真4】 アグリパーク豊野の青空市は午前7時～午後5時開所。全国発送も受け付けている。

まちおこしに取り組む
元気な笑顔に会いに
商店街を歩く
(取材日…5月12日)



東福寺入口の羅漢

室町時代から町が形を作り始め、海や山の幸の集散地として繁栄し、多くの豪商を輩出した小川町。商店街の至る所に見られる仁王像や地藏などは、かつて財を築いた商人たちの奉納によって造られたもの。芝居小屋跡などもあり、富を蓄えた商人の様子が目に浮かぶ。町が繁栄した証を残そうと、現在は地区

の人々が頑張っている。商店街は昭和40年代の道路拡張工事により、風情ある軒先がなくなり交通量が増えたとのこと。そのため散策中も常に周囲に車がないかどうか注意しなければならぬ。「もつと安心して歩くことのできる通りになればいいですね」と話すボランティアの人の話に納得。雨降りでも軒先を通れば濡れなかったという昔の風景が見たいと思った。
13時25分 農産物直売所すずめのおやどに到着。この日、当番だった佐方さんと森田さんによると、この時期は黒皮カボチャやキュウリがよく売れるとのこと。
13時39分 「宇城市小川支所前」発。
13時53分 「松橋営業所」着。



- 【写真1】 新麴屋の固形紅茶。かつてはセイロンにも輸出されたという
- 【写真2】 郷土資料館では頼山陽展が開催されていた
- 【写真3】 小川阿蘇神社
- 【写真4】 すずめのおやどの佐方さん(右)と森田さん